



OTELLO SYNOPSIS - JAPANESE

第1幕

Otello

オテロ

作曲：ジュゼッペ・ヴェルディ

原作：ウィリアム・シェイクスピアの戯曲『オセロ』

台本：アッリーゴ・ボーイト

初演：1887年2月5日、ミラノ、スカラ座

15世紀末のキプロス島。島民が海岸に集まり、嵐を衝いて帰還してくる、侵略をたくらむトルコ艦隊からキプロスを守るために派遣されていたヴェネツィア艦隊を心配そうに見守っている。ヴェネツィア軍の将軍であり、キプロス島の総督でもあるムーア人のオテロ（英語読み：オセロ）が乗船している旗艦も無事に帰還し、完全勝利を宣言した。オテロの旗手イアーゴが、オテロの美しい新妻でヴェネツィア出身のデズデーモナ（英語読み：デズデモーナ）に横恋慕している金持ちのロデリーゴと話し込んでいる。そんな彼にイアーゴは、「デズデーモナはすぐにオテロになど飽きるにちがいない」と吹きこみ、彼が想いを遂げられるよう力を貸すと約束する。そして、自分を差し置いてカッシオを副官に昇進させたオテロへの憎しみを露わにする。島民たちがオテロ将軍の勝利と無事の帰還を祝う中、イアーゴが乾杯を提案する。カッシオは酒を断るが、イアーゴは「将軍の花嫁に乾杯できないのか」と強引に飲ませる。悪酔いしたカッシオがふらふらになると、イアーゴはロデリーゴをたきつけて、カッシオにからませる。前総督のモンターノがふたりの喧嘩をやめさせようと割って入ると、カッシオはモンターノとまで喧嘩をはじめてしまう。そこへ騒ぎを鎮めるために城の中からオテロが現れ、部下たちの振る舞いを戒める。そして妻までがこの騒ぎに気づいて起きて来たのを見ると、カッシオの昇進を取り消し、全員に帰宅を命じる。ふたりきりになると、オテロとデズデーモナはふたりが結ばれるまでの日々を回想し、愛を確かめ合う。

第2幕

イアーゴがカッシオに近づき、奥方から将軍にとりなしてもらうよう勧める。オテロに対して絶大な影響力があるから、きっと副官に戻してもらえるはずだというのだ。カッシオの姿が見えなくなると、イアーゴは「人間は冷酷な神によって邪悪な存在として創られたものであり、人生には何の意味もない」という己の信条を明らかにする。彼は、庭園でカッシオがデズデーモナに近づくのを見る。そこへオテロがやって来ると、さりげなくデズデーモナの不貞をほのめかす。その美貌に見とれながら優しく妻を迎えるオテロだが、妻がカッシオの件を話題にす

ると、腹を立て、頭痛がすると言いはじめる。デズデーモナが夫の額の汗を拭おうとハンカチを取り出すと、オテロはそれを払いのける。デズデーモナの侍女でイアーゴの妻でもあるエミーリアが、地面に落ちたハンカチを拾う。デズデーモナが夫をなだめている間に、イアーゴはエミーリアからハンカチを奪う。オテロは人払いをするが、イアーゴはその場に残ってオテロが猜疑心を募らせていくさまを観察する。さらには、カッシオが寝言でデズデーモナの名前を呼んだという作り話や、カッシオがデズデーモナのハンカチを持っていたことなどを吹き込んで、オテロの不信感を煽る。怒りと嫉妬心を爆発させて復讐を誓うオテロにイアーゴが協力を誓う。

第3幕

第4幕使者が来て、間もなくヴェネツィアから大使が到着すると告げる。イアーゴはオテロに、あとで不倫に関するさらなる証拠を見せると言って立ち去る。デズデーモナがやって来る。オテロは初め穏やかに接しているが、妻が再びカッシオの件を持ち出すと、以前、自分が贈ったハンカチを見せろと迫る。デズデーモナが重ねてカッシオの復位を求めると、オテロは怒りを抑えることができなくなり、妻の不貞を責め、その場から追い払う。一人になったオテロは絶望と自己憐憫にさいなまれるが、イアーゴがカッシオを連れて戻って来ると、身を隠す。イアーゴは先ほど盗んだデズデーモナのハンカチを見せびらかしながら、盗み聞きしているオテロが、カッシオがデズデーモナとの情事について話していると誤解するように、巧みに会話を運ぶ。大使の到着を報せるラッパが聞こえる。怒りを募らせたオテロは、今晚、妻を殺すことを誓う。ロドヴィーコ大使は、オテロをヴェネツィアに召還し、その後任にカッシオを任命すると伝えた。これを聞いたオテロは、衆人の前で我を忘れて妻を床に突き倒し、罵声を浴びせた後、人払いをし、床にくずおれてもだえ苦しむ。イアーゴが満足げにその姿を見ている。

第4幕

デズデーモナの就寝のしたくをエミーリアが手伝っている。脅えるデズデーモナは、恋人に見捨てられた乙女の歌を歌い、エミーリアに感傷的なお休みの挨拶をしてから祈りを捧げる。眠りに落ちると同時にオテロが枕元に来てデズデーモナに口づけをして起こす。今からお前を殺す、と言うオテロ。デズデーモナは恐怖におののきながら身の潔白を訴えるが、オテロは妻の首を絞める。エミーリアが、カッシオがロデリーゴを殺したという知らせを持って駆けこんで来るが、息を引き取ろうとしているデズデーモナを見つけて驚き、助けを呼ぶ。ようやくイアーゴの策略が明らかになり、オテロは自分のしたことに気づく。彼は過去の栄光に思いを馳せたのち、短剣を抜いてわが身に突き立て、妻に最後の接吻をして絶命する